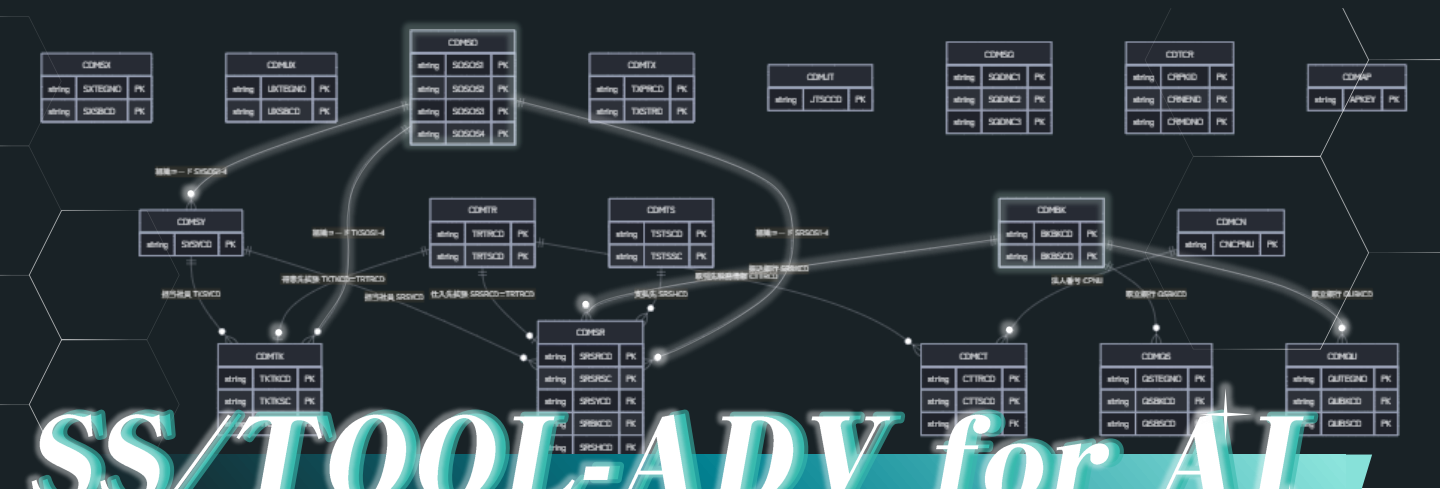
新ソリューションのお知らせ



SS/TOOL-ADV for AI

IBM iの構造を理解させてから、AIに聞く。

SS/TOOLは、IBM iのシステムを解析・構造化することで、AIをより効率的に活用するための土台をつくります。

調査にかかるトークン消費や時間を抑えられるほか、不要なソースを拾うことによる確認作業も減らせます。

AI単体での調査と比べて、ムダなく・的確に調査を進められる点が、SS/TOOLならではの価値です。

——SS/TOOLは、AIの相棒です。

活用ポイント

AI単体※		AI+SS/TOOL
ソースを都度 読み解きながら調査	IBM iの構造理解	解析済みデータを 直接参照して調査
調査のたびに 消費しやすい	トークン消費・時間	抑えて調査できる
不要なソースを拾い、 精査に手間が かかることがある	確認作業	構造化データで 的確に絞り込める

※「AI単体」は、SS/TOOLを介さずAIがIBM iのソースを直接読み解いて調査する場合を指します。

SS/TOOLの活用や出力例は裏面へ ➡

iS Technoport
A CRESCO COMPANY

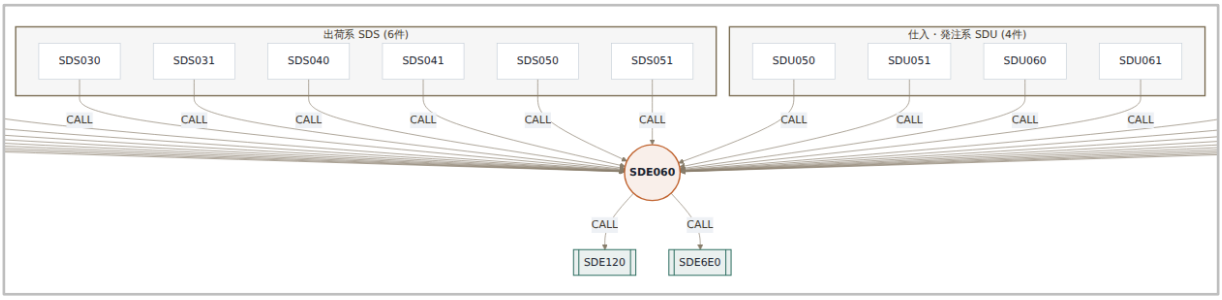
何故SS/TOOLが必要なのか？

こんな場面での活用

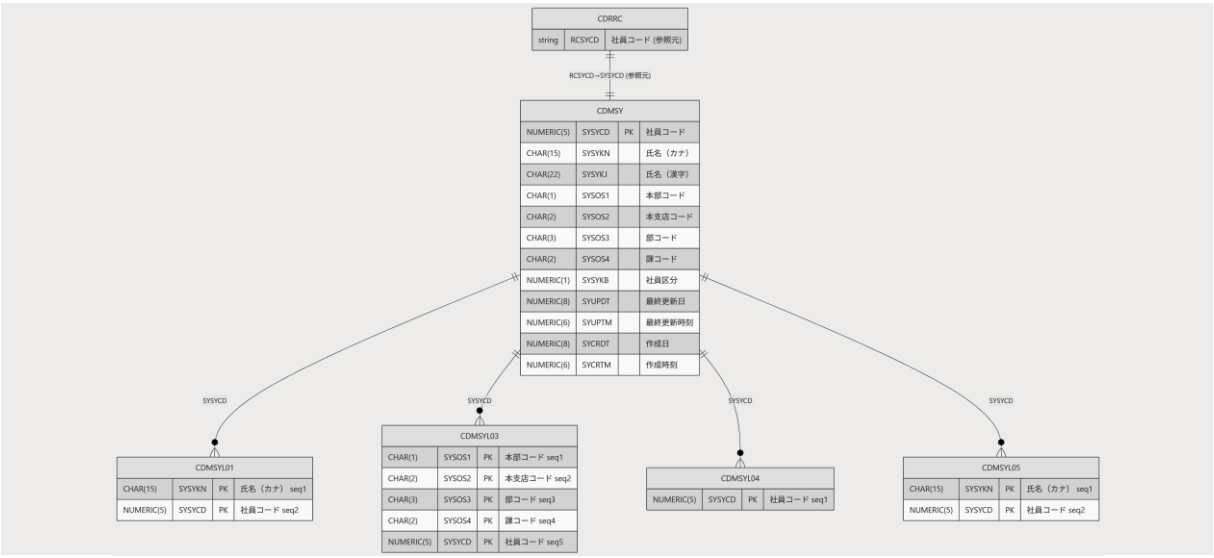
- 「このフィールドを変更したら何に影響する？」を、着手前に確認したいとき
- 退職・異動を控えたベテラン担当者の知識を、若手が引き継ぐとき
- 仕様書が無い／古いプログラムの構造を、最短経路で理解したいとき

出力例（SS/TOOL+AI）

出力例１　SDE060 を呼び出している/呼び出されているプログラムを自動で可視化した例
（AIへの「SDE060の前後の構造図を出力して」の一言で出力）



出力例２　「社員マスタのER図を出力して」 と指示した例



ご利用の流れ

ステップ１.ヒアリング	ステップ２.導入・設定	ステップ３.運用開始
現状の課題を確認します。	IBM i上にセットアップし、接続確認を行います。	IBM Bob／Claude Codeから、すぐにご利用いただけます。

対応環境	IBM i（PASE環境）で稼働 ／ 標準的なMCP（Model Context Protocol）に対応したAIクライアントから接続可能

※ 動作確認済み：IBM Bob、Claude Code（Claude Desktopアプリ内のCodeタブ含む）。他のMCP対応クライアントについては、順次確認を予定しています。

既にSS/TOOL-ADVをご利用のユーザー様は…

「 SS/TOOL-ADV AIオプション 」 として追加導入いただけます！

株式会社アイエステクノポート

お問合せ　TEL：03-6402-5440　E-Mail：solution@istechnoport.co.jp

Webサイトはこちら